

千代田図書館 企画展示

検閲官—戦前の出版検閲を担った人々の仕事と横顔

千代田図書館では、企画展示「検閲官—戦前の出版検閲を担った人々の仕事と横顔」および、関連講演会「検閲官の実像にせまるⅠ・Ⅱ」を開催いたします。

当館では、戦前期に内務省で行われていた出版検閲で実際に使われた本を約2,300冊所蔵しており、「内務省委託本」と呼んでいます。また、それらの資料の研究を、研究者とともに行ってまいりました。

本展は、現存する資料が少ないなどの理由から、実像がつかみにくかった内務省の検閲官に焦点を当てます。新発見の資料や、断片的に存在していた情報をつなぎ合わせることで見えてきた“検閲官の実像”にご注目ください。

千代田図書館蔵「内務省委託本」とは

1937（昭和12）年頃以降、内務省で検閲業務に用いられた原本の一部が、千代田図書館の前身である東京市立駿河台図書館をはじめとする市立図書館4館に委託されていました。当館では、これらを「内務省委託本」と呼び、現在約2,300冊が確認されています。当館の所蔵する「内務省委託本」は実際に検閲に使用されたもので、内務省の検閲官が内容をチェックするために引いた赤線・青線、出版の可否についてのコメントなどが残されています。発売頒布禁止となった本は含まれていませんが、当時どのように検閲が行われていたのかを知ることができるという点で、出版史上貴重な資料です。

展示 検閲官—戦前の出版検閲を担った人々の仕事と横顔

戦前の日本では、中央官庁の一つであった内務省が出版物の検閲を行っており、全国で出版されたさまざまな書物が内務省に納本されていました。それらの書物を手に取って発売頒布の可否を決定していたのが、警保局図書課の検閲官たちです。

近年、出版検閲に関する研究が進み、制度としての側面は徐々に明らかになってきた一方で、個々の検閲官についての研究はほとんど報告されていません。それは、資料がそもそも少なく、また、彼らがどのような人生を送っていたのか、『出版警察報』などの内部文書からではわからないためです。

今回の展示では、新発見の資料とこれまで断片的に存在していた情報をつなぎ合わせることで、検閲官の実像に迫ります。

図書課の人員体制や業務分担など、検閲官の全体像をパネルで解説し、関連する書籍を展示・貸出します。また、4人の検閲官をとりあげ、仕事内容や異動・昇進などのキャリアパス、さらにプライベートを含めて人物像を紹介し、彼らの仕事と横顔を今に伝える貴重な資料をケースにて展示します。

併設展示

県立長野図書館所蔵 出版検閲関連資料

検閲によって禁止や削除などの処分を受けた出版物は、各地の公共図書館でも所蔵している場合があります。処分が決裁されるよりも先に市場へ流通し、図書館が購入したためです。処分についての情報は、内務省から警視庁へ、そして各地方の警察から管轄の図書館へ主に電話を使って通達されました。それを受けて、図書館では該当出版物の自主的な閲覧制限、ページの切り取り、警察への現物の引き渡しなどが行われていました。今回展示する県立長野図書館の事務文書綴り（4種9点）からは、戦前の公共図書館が検閲制度とどのように向き合っていたのか、その一端を読み取ることができます。

会期	2017年1月23日（月曜日）～4月22日（土曜日）
場所	千代田図書館9階 展示ウォール
主催	千代田区立千代田図書館
協力	浅岡邦雄氏、牧義之氏、村山龍氏、安野一之氏（千代田図書館「内務省委託本」研究会）、人首文庫、県立長野図書館

関連講演会 検閲官の実像にせまるⅠ・Ⅱ

2月11日（土・祝）午後2時～4時

検閲官の実像にせまるⅠ—エリートとたたき上げ—

第一部：検閲官の実像にせまるⅠ—エリートとたたき上げ—

第二部：図書館と出版検閲 県立長野図書館の事務文書から

戦前の検閲制度に関する調査・研究が進む中で、実際の現場で働いていた内務省警保局の検閲官の実像も少しずつわかってきました。今回の展示でもとり上げた土屋正三らエリート官僚と、図書課内のたたき上げであった安田新井など、個々の検閲官に焦点を当てて、調査から見てきた彼らの実像について解説します。また、戦前の図書館と検閲制度がどのような関係の中にあっただのか、県立長野図書館の事務文書から読み解いて行きます。

日時	2017年2月11日（土曜日・祝日）午後2時～4時（午後1時30分開場）
場所	千代田区役所4階 401会議室
定員	80名（事前申込制・参加無料・先着順）
講師	安野一之氏（NPO法人インテリジェンス研究所事務局長） 牧義之氏（長野県短期大学多文化コミュニケーション学科助教） 槌賀基範氏（県立長野図書館資料情報課情報係主任）

3月4日（土）午後2時～4時

検閲官の実像にせまるⅡ—文学青年だった検閲官—

警察出身者が多い検閲官の中で、佐伯郁郎と内山鑄之吉は文学部卒という異色の経歴を持つ人物です。彼らは職務として検閲する一方で、佐伯は詩人、内山は演劇人という顔も持っていました。検閲する側

でありながら、時に検閲される側にもなった彼らの足跡を追いながら、一個の人間としての検閲官像を浮かび上がらせてます。

日時	2017年3月4日（土曜日）午後2時～4時（午後1時30分開場）
場所	千代田区役所4階 401会議室
定員	80名（事前申込制・参加無料・先着順）
講師	安野一之氏（NPO法人インテリジェンス研究所事務局長） 村山龍氏（慶應義塾大学非常勤講師）

講演会申込方法

2017年1月23日（月）10:00～受付開始

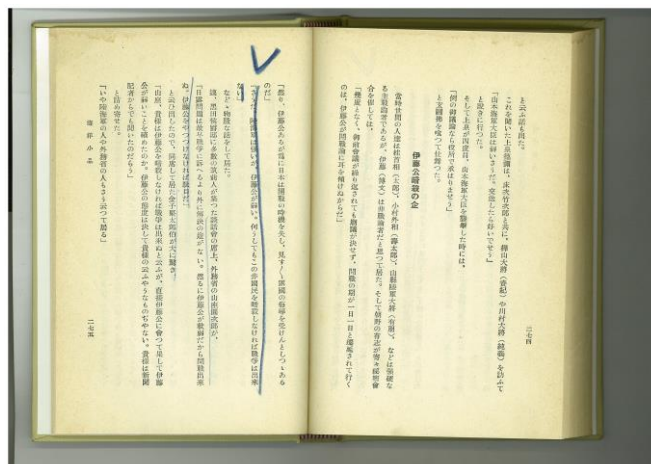
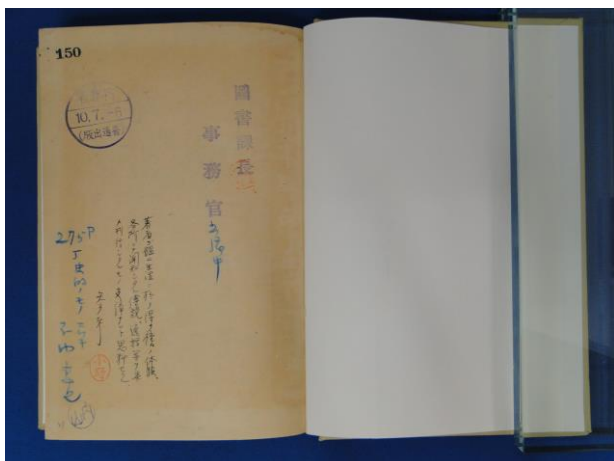
①電話＝千代田図書館 03-5211-4289・4290

②来館＝千代田図書館10階カウンター

※①と②の受付日時は、月～金曜日（祝日を除く）10:00～18:00

③Web＝千代田区立図書館ホームページより ※Web予約は貸出券をお持ちの方のみ

【検閲官がコメントや印を残した書籍】『航海風景』學而書院、1935年 千代田図書館蔵「内務省委託本」



【内務省警保局図書課の検閲官たち】昭和7年頃 提供：人首文庫

本件お問合せ先：千代田図書館 広報担当：坂巻 TEL 03-5211-4288

お客様お問合せ先：TEL 03-5211-4289・90／千代田区九段南1-2-1千代田区役所9・10階

千代田区立図書館ホームページ <http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>